

## 抗がん剤治療に関する説明及び同意書

### ●あなたの病気・治療法について

#### 皮下注アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法

アミバンタマブの皮下注射を1コース目は毎週行います。その後、アミバンタマブの皮下注射を2週間毎に行います。効果が持続している間、繰り返します。ラゼルチニブは1日1回毎日内服します。

#### 皮下注アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法(スケジュールと方法)

方法	薬剤	治療日(目安)
内服 + 皮下 注射	ラゼルチニブ	
	アミバンタマブ	
		1日目      8日目      15日目      22日目             1日目      15日目~

※アミバンタマブの投与日には副作用予防薬の点滴と内服があります。

### ●副作用について

副作用の現れ方、出現頻度には個人差があります。抗がん剤による副作用は、薬で予防できるものや、症状を和らげることができるものもありますので、副作用が辛いと感じたときには担当医にお知らせください。

起こりやすい副作用	薬剤注入による反応、皮膚障害、静脈血栓塞栓症、爪囲炎、口内炎、血小板減少、だるさ、浮腫、肝機能障害、便秘、下痢
時として起こる副作用	電解質異常、吐き気、脱毛、めまい、眼の異常、白血球減少
まれにしか起こらないが重い副作用	間質性肺炎、アナフィラキシーショック

### ●起こりやすい副作用

#### ① 薬剤注入による反応 (infusion reaction)

投与中または投与後に発熱、悪寒、ふるえ、かゆみ、発疹、高血圧や低血圧（めまい、ふらつき、頭痛）、呼吸困難などが現れることがあります。投与中や投与後24時間以内にこのような症状が現れた場合は、担当医にお知らせください。

## ② 皮膚障害

治療開始1週間目頃からニキビのような発疹、皮膚の乾燥、かゆみが全身に現れることがあります。治療開始と同時に皮膚や頭皮を清潔に保つ、保湿剤を使用して全身を保湿する等のセルフケアを始めましょう。

## ③ 静脈血栓塞栓症

血液の中に血の塊ができ、それによって血管が詰まり、血管の詰まる部位によって様々な症状が現れます。血栓予防の薬を使用することもあります。

息苦しい、胸や背中が痛い、足・腕に力が入らない、言葉が出ない、むくみ・しびれなどの症状が現れた場合は、担当医にお知らせください。

## ④ 爪囲炎

治療開始6週間目頃から手足の爪の周りの皮膚に赤みや腫れを伴う炎症が現れることがあります。皮膚を清潔に保ち、指先の保護や保湿を心がけましょう。

## ⑤ 口内炎

治療開始から10日目頃までに特に起こりやすいとされています。口腔内を清潔に保つため、歯磨きやうがいなどを十分行いましょう。

## ⑥ 血小板減少

治療開始から1~2週間目に最も低下します。血小板は止血に重要な機能を果たしています。血小板の数が極端に低下した時や(2万未満)、出血がみられる場合などは、血小板輸血を行うことがあります。

## ⑦ だるさ

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。しかし、肺がん自体でも同症状が出現することもあります。

## ⑧ むくみ

体の水分量のバランスが崩れ、むくみが出ることがあります。むくみの原因によって対処法が異なりますので、自己判断でマッサージ等を行わないようにしてください。急激な体重増加、手足がだるい、まぶたが腫れぼったい、靴が履きにくいという症状が出たら、すぐに担当医にお知らせください。

## ⑨ 肝機能障害

定期的に血液検査を行います。疲れやすい、体がだるい、食欲がない等の症状が現れることもあります。肝機能障害がひどくなった場合、薬剤投与を中止することもあります。

## ⑩ 便秘

抗がん剤や吐き気止めの薬が原因で便秘が起こることがあります。便を柔らかくする薬や腸の動きを促す薬を使って、便秘を改善するようにします。

## ⑪ 下痢

下痢の回数が増えると脱水症状を引き起こすこともあるので注意が必要です。飲み薬や点滴による治療を行うこともあります。

## ●時として起こる副作用

### ① 電解質異常

低カリウム、低マグネシウム、低カリウム等の電解質異常が現れることがあります。薬で電解質を補充することもあります。

### ② 吐き気

吐き気が現れることがあります。吐き気止めを使ってできるだけ吐き気がでないようにします。

### ③ 脱毛

治療開始 2 週間後くらいから髪の毛が抜け始めます。しかし治療が終了して 1~2 か月後には髪の毛が生え始め、6~7 か月後には、治療前と同じくらいまで生えそろういます。

### ④ めまい

めまいや立ちくらみが起こることがあります。転倒には十分注意してください。

### ⑤ 眼の異常

眼乾燥、眼瞼炎、角膜炎、視力低下等が起こることがあります。

### ⑥ 白血球減少

白血球は、細菌から身を守る役割(免疫機能)を担っているため、ある一定以上の数がないと感染症にかかりやすくなります。最も白血球数が低下する時期は投与 7 日から 14 日目とされています。この時期に発熱を認めた場合には、すぐに担当医にお知らせください。

## ●まれにしか起こらないが重い副作用

### ① 間質性肺炎

間質性肺炎(肺臓炎)は、発症した患者さんの半分近くが命をおとす危険な副作用です。風邪のような症状(咳がひどくなる・息切れ・発熱など)が現れたら、担当医に伝えるようにしてください。

### ② アナフィラキシーショック

極めて稀に、点滴中にショック状態や呼吸困難が出現することがあります。点滴中に痒みが出たり、息苦しくなったりした場合には、すぐに知らせてください。

## ●その他注意すること

### ① 血管外漏出

抗がん剤が血管の外に漏れることで組織の障害(炎症・壊死)などをもたらします。点滴中に痛みが出現した時にはすぐにスタッフへ教えてください。また組織の障害は数日経過してから起こることもあります。

抗がん剤治療による様々な副作用は上記以外にも起こることが報告されています。適切な治療を行ったにも関わらず、お亡くなりになる方もいらっしゃいます。上記のような症状、または上記以外でもいつもと違う症状が出た場合は、担当医まで連絡してください。

以上がん化学療法について説明をしました。 西暦                      年           月           日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター

@USERSECTION 担当医師

---

同席者 (看護師)

---

上記について担当医から説明を受け、納得しましたので治療を受けることに同意します。

西暦                      年           月           日

患者氏名

---

親族又は代理人(配偶者・父母・兄弟姉妹・親権者・保護義務者・法定代理人・その他)

氏名

---

続柄

---